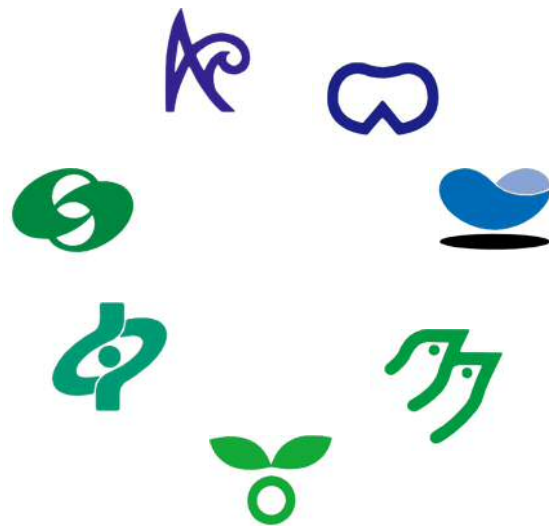


平成 2 7 年度

区民会議交流会

報告書



平成 2 8 年 3 月

目次

1. 開催の目的	・・・03
2. 実施概要	・・・03
3. 進め方	・・・03
4. ワークショップについて	・・・04
5. 座席表	・・・07
6. 区役所改革の基本方針（素案）についての説明資料	・・・08
7. ワークショップの成果	・・・09
8. 参加者アンケートの結果	・・・30
9. 当日の写真	・・・37

区民会議交流会

平成28年2月3日（水）18:00～19:30、川崎市総合福祉センター（エポックなかはら）7階 大会議室（武蔵）にて、「区民会議交流会」を開催しました。当日は72名の出席をいただきました。（傍聴3名）

1. 開催の目的

各区の区民会議委員が、互いに取組状況や運営方法の情報交換を行うとともに、相互の連携を深めることで今後の区民会議の発展につなげることを目的として開催しました。

2. 実施概要

各区20名から構成される区民会議委員のうち出席を希望する委員が参加し、川崎市職員より区役所改革の基本方針について5分程度説明後、参加委員を8グループに分けてテーマに沿ったワークショップ方式（40分間）の意見交換を行い、1グループにつき3分程度の委員による発表を行いました。

3. 進め方

次のような進め方で行いました。

- 17:30 受付開始
- 18:00 開会・あいさつ
- 18:06 区調整課より「区役所改革の基本方針について」の説明
- 18:16 7区委員によるワークショップ
- 19:01 グループごとの発表
- 19:25 講評・閉会のあいさつ

4. ワークショップについて

4-1. テーマについて

平成27年度の区民会議交流会では、昨年度までの意見交換会に代わり、テーマを設定しワークショップを開催しました。各テーブルにファシリテーターを1名ずつ配置し、議論を進めていきました。ワークショップのテーマは次のとおり設定しました。

これからの地域づくりを考えよう

～自分でできること、団体（地域）でできること、区民会議のあり方～

昨今の社会情勢の変化や、現在策定中の新たな総合計画や行財政改革に関する計画の検討などを踏まえ、10年後の地域社会を見据えた今後の区役所の果たす役割と今後の方向性を明らかにするため、「中長期的な区役所のあり方」について検討を進め、区役所改革の基本方針（素案）を取りまとめました。

その中で、「めざすべき区役所像」として

- (1) 市民目線に立った行政サービスを総合的に提供する区役所
- (2) 共に支え合う地域づくりを推進する区役所
- (3) 多様な主体の参加と協働により地域の課題解決を図る区役所

を掲げており、特に(2)の区役所像の中で、

- 地域づくりに向けた取組の推進
- 地域人材への支援と多様な主体間のネットワーク化の推進
- 区民会議のあり方の検討

に関する取組を推進していくことを目指していることから、ワークショップのテーマを設定しました。

4-2. ワークショップの進め方について

以上の背景を踏まえ、意見交換では、「これからの地域づくりを考えよう」というテーマのもと、地域での顔の見える関係・コミュニティづくりや、市民が当事者意識を持った地域課題の解決、多様な主体とのネットワークによる地域課題の解決等についてのアイデアを、①自分でできること、②団体（地域）でできること、③区民会議のあり方という視点で出し合い、ワークシートに整理しました。

次のタイムテーブルに沿ってワークショップを行いました。

(1) ワークショップ（45分）

- ・【進め方の説明】 ファシリテーターから流れの説明（1分）
- ・【自己紹介】 区名、名前のみ（4分）
- ・【付箋に記入】 1人2～3枚テーマについて意見を記入
- ・【KJ法でまとめる】
類似した意見をワークシートにKJ法（※）でまとめ、
「自分ができること」「団体（地域）ができること」「区民会議のあり方」
の視点で整理する（30分）
- ・【発表準備】 発表者を決め、「他グループに発表したい意見」を満遍なく
4つ決めて発表準備をする（5分）

(2) グループごとの発表（24分）

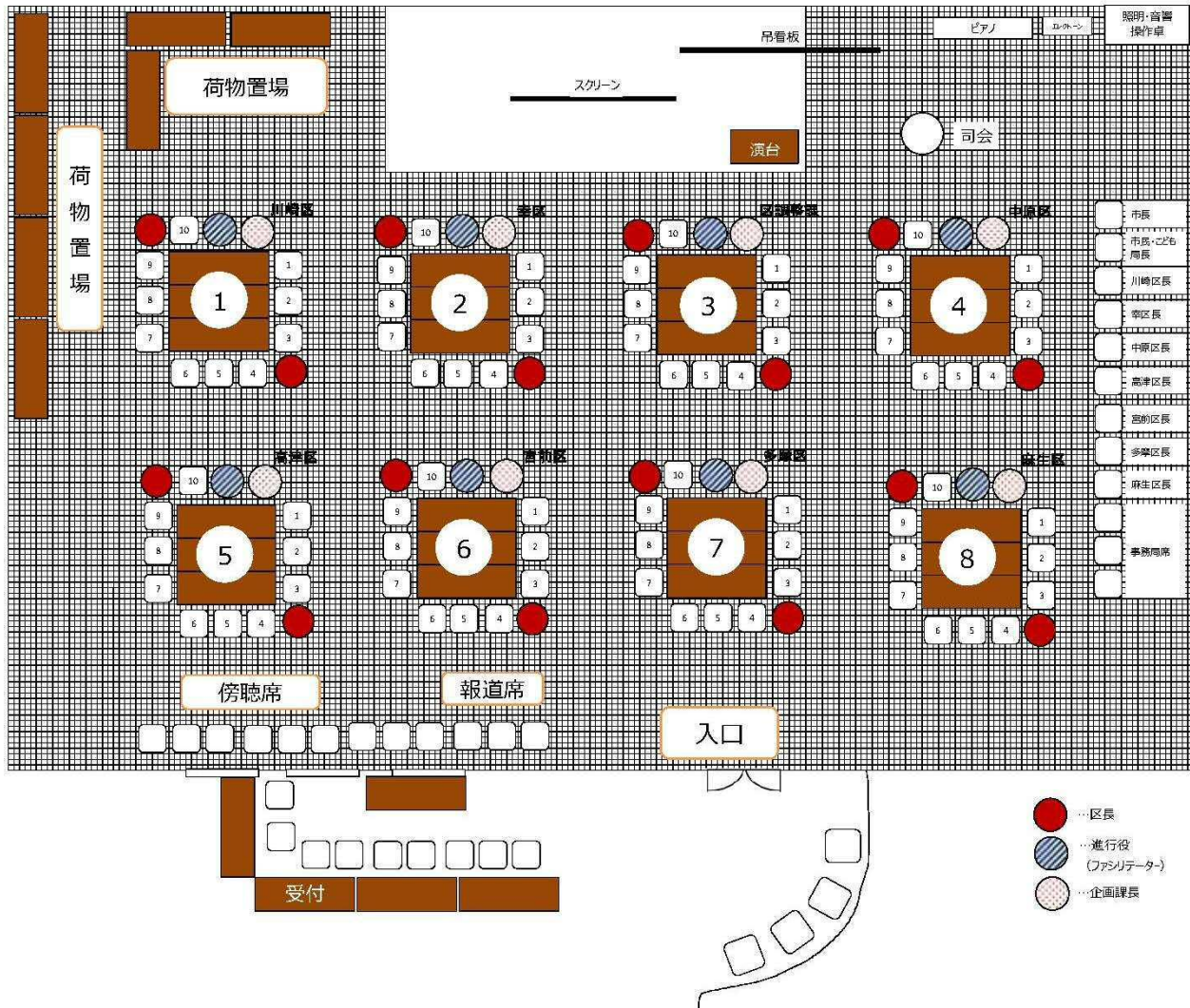
各テーブルの委員（代表1人）による発表
3分×8グループ

※KJ法…蓄積された情報の中から必要なものを取り出し、関連するものをつなぎ合わせて整理し、統合する手法の一つ。今回のワークショップでは、各委員が意見を付箋に書き出してワークシートに貼り、類似の意見毎にまとめていきました。

5. 座席表

グループ内での自己紹介の時間を短縮するため、事前に参加者の皆様からご提出いただいた自己紹介シートを配布し、手元で確認できるようにしました。

各テーブルにお茶とお菓子を用意し、自由にお茶やお菓子を楽しみながら気軽に話し合いができるように配慮しました。



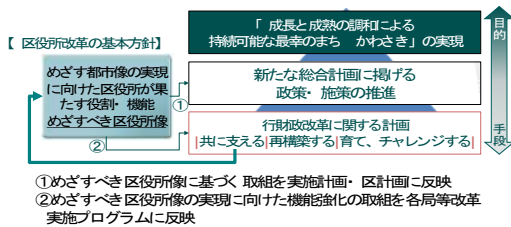
6. 区役所改革の基本方針（素案）についての説明資料

区役所改革の基本方針(素案)について

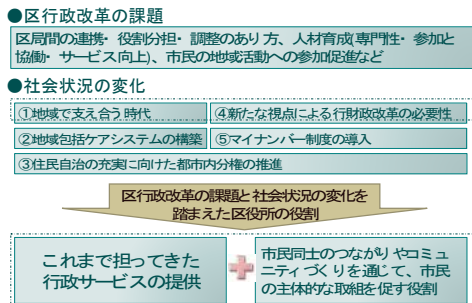
川崎市 市民・こども局 区政推進部 区調整課



2. 「新たな総合計画」と「行財政改革に関する計画」との関係



4. これからの区役所の役割



6. めざすべき区役所像の実現に向けた機能強化

- ① 区役所と事業局との役割分担のあり方の見直し
- ② 区役所機能の強化に向けた執行体制の整備
- ③ 区予算のあり方の検討
- ④ 区役所における行政のプロフェッショナルの育成
- ⑤ 区における広報・広聴機能の検討

1. 区役所改革の基本方針とは

- ・区行政改革として、これまでの約10年間にわたり様々な区役所機能強化の取組を推進
- ・その間、東日本大震災や超高齢化社会への進展を背景とする地域包括ケアシステムの構築など社会環境が大きく変化
- ・本市では、新たな総合計画と行財政改革に関する計画を平成28年3月に策定予定
- ・こうしたなか、これからの区役所が果たすべき役割と「めざすべき区役所像」を示す「区役所改革の基本方針」を平成28年3月に策定予定

3. これまでの区行政改革の取組

- ①地域の課題を発見し、迅速・的確な解決を図る区役所
 - 道路公園センターやまちづくり支援担当の設置、児童家庭支援機能の強化、待機児童ゼロ表現に向けた取組など
- ②地域活動や非営利活動を支援する市民協働拠点としての区役所
 - 市民提案型協働型事業の実施、市民活動拠点の整備やスポーツセンター・市民館などの施設移管など
- ③市民に便利で快適なサービスを効率的、効果的かつ総合的に提供する区役所
 - 区役所サービス向上の取組、出張所・連絡所等の機能再編、幸区役所庁舎整備、区役所快適化リフォーム等の推進など
- ④地域住民の総意に基づく自治を実践する区役所
 - 区における総合行政の推進に関する規則的的確な運用、区役所予算の充実、企画課、危機管理担当の設置、区民会議の設置・運営など

5. めざすべき区役所像

- ① 市民目線に立った行政サービスを総合的に提供する区役所
 - ・総合行政機関としての着実なサービス提供の推進
 - ・市民感覚・現場起点による継続的な区役所サービス向上の推進
 - ・窓口サービスの機能再編
 - ・計画的な庁舎整備の推進
- ② 共に支え合う地域づくりを推進する区役所
 - ・地域づくりに向けた取組の推進
 - ・地域人材への支援と多様な主体間のネットワーク化の推進
 - ・区民会議のあり方の検討
- ③ 多様な主体の参加と協働により地域の課題解決を図る区役所
 - ・地域課題対応事業の活用
 - ・区における中間支援機能の検討
 - ・地域づくりに向けた場の確保

7. 区民会議について

- ・区民会議の主な課題
 - 調査審議結果を具体的な事業として実行していくためのしくみづくり(提案を実際の活動につなげ広げていくしくみ)
 - 認知度向上、幅広い世代の参加
 - 委員の役割や任期、参与の位置付け等区民会議のしくみ自体の整理 など
- ・今後の取組の方向性
 - 地域での実践に結び付けるには、より多くの区民が当事者意識を持てるようにすることが必要ではないか?
 - 「身近で小さな単位」や「区民が関心のあること・やってみたいこと」などをキーワードに検討を進める

7. ワークショップの成果

これからの地域づくりを考えよう！

1 グループ

メンバー：塚原（川崎）、原（川崎）、成川（幸）、伊藤（幸）、板倉（中原）、山崎（中原）、遠藤（高津）、本郷（宮前）、杉下（多摩）、高倉（麻生）

●議論のポイント

- ・自分ができること、団体や地域ができることとして、自分の立場を活用し行政と住民とのパイプ役になれる、所属団体の活動を進めるとの意見が出された。
- ・地域包括ケアに関しては、団体としても個人としても協力をして取組を進めたいとの意見が出された。
- ・区民会議のあり方として、委員についてはテーマを先に選定しテーマに合った人材を選んだり、もっと若い方の参加を増やしていきたいとの意見が出された。
- ・区民会議の実行力を高めるために、任期の2年をこえてテーマを継続できる仕組みを検討したり、区民会議のコーディネート機能を強化してはどうかなどの意見が出された。

●自分ができること

住民と行政のパイプ役になろう

- ・行政と地域住民とのパイプ役、連絡役

高齢者支援として声掛けをしよう

- ・高齢者の生活支援、街をぶらぶら歩いている人に声掛けをする
- ・一人暮らしの方へお声掛け
- ・医者にかからない健康な高齢社会にしたい、スポーツに親しめ！施設の充実を！
- ・健康な方の多い高齢社会にしたい

子どもの見守り活動やあいさつ運動に参加しよう

- ・登下校の見守り活動（あいさつ運動）

行政が企画するイベントに参加しよう

- ・行政企画のイベントに参加すること、参加を呼び掛けること、意見を述べること
⇒イベントに参加することで、知り、発言していくことにつながる

ボランティア活動を通じて地域に貢献しよう

- ・ボランティア活動を通じて地域に貢献すること

地域包括ケアへの参与をしよう

- ・幸区の支え愛など、自分が町内会長として地域住民の意向を可能な限り、市政、区政に反映させる

⇒地域包括ケアに個人としても町会としても貢献したい

●自分の団体や地域ができること

P T Aとして保護者と先生との情報交換をする

- ・保護者と先生との交流を通して情報交換（P T A活動）

外国人支援のネットワークづくりに関われる

- ・川崎区における外国人支援システム協働の取組、防災、教育、子育ても

隣近所に料理のおすそ分けをして、日常的な交流を深めよう

- ・隣近所に一品料理おすそわけ

世代間交流イベント、特に新旧住民の交流を進めよう

- ・世代間交流イベント（新旧住民の交流）

避難所の運営などに、マンション住民へ働き掛けるなどして参加を促したい

- ・避難所の運営に多くの人の参加が望ましい

地域包括ケアへの参与をしよう

- ・社会福祉法人青丘社が40年培ってきた地域全体の福祉活動～地域包括ケアシステムへの参与

⇒地域包括ケアに個人としても所属団体としても貢献したい

●区民会議のあり方

検討テーマに合った人材選びが必要では

- ・テーマの選定とそれに合った人材の抽出、テーマ→人材
- ・幅広い世代に委員として参画してもらうため、課題やテーマを先に選定する

⇒先にテーマを決めて、この指とまれ方式で委員を集めれば若い人も集まるのでは

中高生の会議を企画するなど、若い方も参加を

- ・区民会議への若い方の参加

- ・中高生の区民会議も年1～2回開催しては
- ⇒中高生の区民会議は地域教育会議と連携してはどうか
- ⇒既存団体と連携させて若い人に参加してもらえば区民会議のPRにもつながるのでは

区民会議の委員に公募を増やせばやる気のある人がたくさん集まるのでは

- ・区民会議委員の構成で…公募を増やせ！知的レベルを上げよう

区民会議の提言についての審議結果を委員がこまめにチェックできる仕組みが欲しい

- ・審議結果を4か月ごとにチェックする仕組みが必要

区民会議のコーディネート機能を強化して実行につながる団体と呼べるようにしては

- ・区民会議が実行につながる関連団体と呼べるようにしては
- ⇒区民会議のコーディネート機能を強化して提言で終わらず実行できる団体に

委員の任期を検討しなおすなど、検討テーマを継続できる仕組みが必要では

- ・委員の任期が2年だと委員全体が入れかわり区民会議としての蓄積が難しい
- ・任期が2年なので検討テーマを次に繰り越して続けていくのが難しい
- ⇒委員の任期を長くしたり、委員を半分ずつ入れ替えるなどの仕組みにしては
- ⇒実行につなげるために検討テーマを継続させる仕組みが必要では

2グループ

メンバー：新井(ト)(川崎)、岩瀬(川崎)、小野(幸)、松井(幸)、反町(中原)、仲亀(中原)、佐々木(宮前)、石井(麻生)

●議論のポイント

- ・自分ができることについては、地域包括ケア構築の土台となる顔の見える地域の人間関係づくりに一役買いたい、というご意見が多かった。
- ・自分の団体や地域ができることについては、様々な分野・主体において既に企画や実践されている取組が多く出された。
- ・町会が核となった地域包括ケアに関わる具体的な活動の展開、地域の教育力向上の第一歩の取組として学校と連携した「あいさつ運動」の展開、警察や民生委員と連携した犯罪抑止・防犯力向上に向けた場づくり、地域団体や人がつながる場としての商店街の交流拠点機能の拡充など、「地域単位」「できることから実践」「多主体連携・協働」をキーワードとした取組が出された。
- ・また、若い世代の参加や多世代交流の促進、地域づくりへの参加のきっ掛けづくりとしての「文化」「音楽」の活用、大学・企業の持つ場・情報・技術の地域づくりへの活用など、

これまであまり地域づくりと関連させてこなかった資源を積極活用することで、様々な立場の市民参加や新たな地域活動を発掘・創出させたいという前向きな意向が多かった。

- ・区民会議のあり方については、「検討テーマの継続性の確保」「身近な課題解決の実践の仕組みづくり」「様々な立場の区民参加」の大きく3つのご意見が出された。
- ・検討テーマの継続性の確保については、委員任期の2年ごとに検討テーマを変えるのではなく、重要なテーマは任期に関わらず継続的に検討できるような進め方が必要という意見が出された。
- ・身近な課題解決の実践の仕組みづくりについては、短期的に解決できそうな課題と、中長期的に検討すべき課題を分けて、前者については、地域団体等と連携して、すぐに実践につながるような仕組みづくりの必要性が指摘された。
- ・様々な立場の区民参加については、「若い世代」「障がい者」「外国人」「企業市民」など、様々な立場の委員の参加を促進することが大切という意見が出された。

●自分ができること

培った人間関係を活用して地域の人と人のつながりをつくる役割を果たしたい

- ・人のつながりが街の暮らしを支えることから、自分の活動の中で今まで培った人間関係と地域との関係づくりに努めたい

⇒直接会って深いコミュニケーションをとろう

地域包括ケアシステムを身近な人にわかりやすく伝えよう

- ・5期委員をして学んだ地域包括ケアシステムについて、近隣の方によく知らせる

●自分の団体や地域ができること

町会で地域包括ケアの取組をできることから実践しよう

- ・地域包括ケアセンターの構築（町会）

⇒町会でできることから始めたい

地域の教育力を高めるきつ掛けとして「あいさつ運動」を進めている

- ・地域教育会議に参加している。人と人の関わりで一番大切な「あいさつ運動」を学校と地域が連携してさらに進めたい

警察等の協力を得て、高齢者の犯罪被害を減らしたり、地域の防犯活動の強化を進めよう

- ・民生委員の活動を通し、会食会などで行政関係、警察などに参加を依頼し、防犯活動や犯罪の手口などをわかりやすく話してもらうことで実際におれおれ詐欺などの件数が減っ

た。これからも続けたい

商店街を人・情報・物が集まり・つながる場にしよう

- ・所属団体と地域“さぎ沼商店会”→“つなげる”機能→人+人（情報・物・・・）、笑顔溢れる、まずは商店街から

文化に関する情報が若者に届くような工夫をしよう

- ・文化協会からの推薦で参加している。様々な文化に関する情報を提供したいが、若い人達に伝える方法を考える必要がある

音楽を通して世代間交流しよう

- ・音楽イベントで地域世代間交流

⇒新しい住民と昔からいる住民の交流につなげる

⇒若者のコミュニティへの参加や世代間交流のきつ掛けとする

大学や企業が持っている地域づくりの資源（場・情報・技術）を地域で共有・活用しよう

- ・昭和音大の職員である。NPO 法人しんゆり・芸術のまちづくりの理事として、企業市民としてハード・ソフト双方の資源が地域に提供できると考えている。川崎市の南北の交流も進められると思う。

⇒企業や大学が持っている技術についてなど、色々な情報発信をする

●区民会議のあり方

小さな課題を解決することから始めよう

- ・課題の実行、簡単にできること、やらなければならないことを明確にして取り組む

⇒すぐに取り組める課題、時間を掛けて考える課題を分けて検討しよう

- ・初めて参加した者にとっては、1年目に会議によく慣れて、実質的に議論しているのは2年目となるので、任期があつという間に終わる印象である

⇒委員任期が終わってもテーマには継続性を持たせよう

提言するだけでなく、討議した内容が実行される仕組みをつくろう

- ・討議した内容が実行される仕組みが必要である
- ・提言書を作成すること自体が目的となっている
- ・区民会議とまち協の関係性も整理する必要がある

⇒地域で具体的な活動力がある人や団体とコラボレーションしよう

若い世代が参加できる仕組みをつくろう

- ・もっと若い世代にも参加してもらえる仕組みをつくる

障がいのある方など、様々な立場の人が参加できるようにしよう

- ・ 健常者の中に障がい者も共に交わり、理解してもらい、補助が必要であれば手伝ってもらいながら話し合う
- ・ 障がい者も地域にもっと参加できることを望みます

⇒参加区民同士の情報格差への配慮も必要

⇒「外国人」の方や「企業市民」にも参加してもらおうとよいのではないか

区の枠を超えた市民交流を促進する役割を担おう

- ・ 他区で議論されたことを、別の区でも活かせるようにしたい
- ・ 区民会議が、区の枠を超えた市民交流の核となれるようにしたい

区民の一人一人の思いに手が届くようなきめ細かい取組をしよう

- ・ 一人のための行政、警察、地域であることが大切

3 グループ

メンバー：新井(一) (川崎)、押山 (幸)、塚本 (中原)、山田 (高津)、横山 (高津)、大槻 (宮前)、田辺 (宮前)、安陪 (多摩)、植木 (麻生)、金光 (麻生)

●議論のポイント

- ・ 自分にできることとしては、身近な人づきあいという意見があがり、それが高齢者の見守り活動や災害時のサポート体制づくりにもつながっていくという議論になった。
- ・ 自分の団体や地域ができることについては、地域で支えあうことを“仕組み化”することが大切という議論になり、中間支援の場の活用やヒト・モノ・カネのマッチング、情報発信などの手法があげられた。また、プロボノなどの人材活用的手段や、エリアマネジメントによる公共施設の利活用に関する意見も出された。
- ・ 区民会議のあり方については、課題を議論する場に留まることなく、行動する区民会議である必要性が強く訴えられた。課題を議論しているだけであれば区民会議は必要ないという意見もあった。行動する区民会議になるためには、公募枠を増やすべきという意見や任期が短いという意見もあった。

●自分ができること

町会など身近な人づきあいを深めよう

- ・ 町会の班の人々のつきあい

高齢者の見守り活動、災害時のサポート体制づくりを実践しよう

- ・高齢者の見守り活動、要支援者制度（災害時）
- ・高齢者の見守り

●自分の団体や地域ができること

行政と町会との関係を見直そう（町会は行政の下請けではない）

- ・行政と町内会の関係性の見直し

町会などの加入者を増やすために、Web サイトやパンフレットをつくって町会活動の情報を発信しよう

- ・町会活動の情報発信、HP やパンフ発行
- ⇒町会の加入方法も併せて伝えられるとよい

団体に取り組んでいる課題を地域の人たちに広く伝えよう

- ・青少年指導員、区教育会議委員として問題、テーマについて取り組んでいる。自分が行っていることを皆に教えたい

趣味の仲間やグループから自助、共助につなげよう

- ・色々な活動→自助、共助につながる

地域で支え合う仕組みをつくろう

- ・地域の自主的な取組とつながる仕組みづくり
- ・皆で支え合う仕組み
- ・防災活動、子どもの見守り

すでにある中間支援組織の場をなど活用しよう

- ・やまゆりという中間支援組織、場の活用

市民団体と交流して組織同士のネットワークをつくろう

- ・市民団体への声掛けと組織化（簡単ではないが）

人、もの、金、情報をマッチングさせよう

- ・人と人、場と場、情報と情報のマッチング

地域の人材を発掘して、その能力を地域で活かしてもらおう

- ・地域の中にいる人材の発掘
- ・プロボノ（有償）の活用

公園や公共空間を整備して、まちのにぎわいをつくろう

- ・公共空間を活用したまちのにぎわいづくり
- ・公園の整備

●区民会議のあり方

地域課題をしっかりと把握し、解決につなげる区民会議にしよう

- ・区長の役割、地域課題を捉えているか？
- ・自転車による事故を減らす様に働き掛ける
- ・冬季の交通安全運動、参加

区民会議ではもっと大きなテーマを扱うべきではないか

- ・小さなテーマが多い、もっと大きなテーマを

大きな成果を出すには任期2年は短いので、もっと長くしよう

- ・2年の任期は短い、十分な検討ができづらい、4年程度にすべきと思う
- ・任期を2年から3年に、また2年以上も可能とする

⇒これまでの振り返りをして、継続性を持たせることも大切

議論をするだけでなく、具体的に誰がどうするのかを決め、行動する区民会議にしよう

- ・区民会議で取り上げるテーマが自治基本条例22条と合っていない
- ・提案だけでなく、実施主体まで検討する
- ・課題論議はアキアキ、誰がという視点を
- ・行動する区民会議
- ・問題点をテーマとして上げ、議論し、具体的な形として残す、表す

やる気のある公募委員を増やして、区民会議を活性化しよう

- ・人選のあり方を変える。推薦を減らし、公募の人たちを多く参加させる

区民会議が地域に知られていないので、積極的に情報発信をしよう

- ・区民会議の状況を私が居住する地域へ伝える
- ・区民会議、検討内容を積極的に発信

区民交流会はもっと時間が必要ではないか

- ・格差広がりに対する区民会議の対応

4 グループ

メンバー：戸村（川崎）、近藤（幸）、井上（中原）、浅田（高津）、川田（宮前）、青柳（宮前）、小田（宮前）、戸高（多摩）、菅野（麻生）、林（麻生）

●議論のポイント

- ・自分ができることとしては、地域活動に積極的に参加し、バルーンアートなどの自分の特技を提供するというアイデアや、これから地域で活動しそうな人に声を掛け、仲間づくりをしていくというアイデアが出された。その際、男性の場合、30代の時に地域に関わった経験を持つと、定年退職後の趣味等を選択する際、地域活動が候補にあがりやすくなるため、長期的に見て30代からの地域参加を促すことが大切という意見があった。
- ・自分の団体や地域ができることとしては、防災や地域の見守り、子ども、農、料理といったテーマ性のある地域活動を入口に、地域のコミュニティを育むことという意見が多く出された。また、特に川崎市南部では転入者が多いため、転入者向けの冊子等によるPRにより、コミュニティ形成に寄与する活動も大切との意見もあった。
- ・区民会議のあり方としては、まちのイメージや各区の特徴をアピールすることが大切という意見の他、テーマ性を持った議論をしながら専門性の高い人を集めた会議体にするこことや、20～30代の人々が区民会議に参加する仕組みづくりを検討していくことが大切という意見があった。

●自分ができること

ボランティアを募ったり、市民からやりたいことを引き出したりして、地域で活動する人を増やそう

- ・市民、やりたいことの引き出し（「どのように」を視点に）→市民活動活性化
 - ・地域のボランティアの方々を増加させることを活動の中につくる
- ⇒30代に地域に関わった経験があることで、定年後に地域に関わりやすくなるため、30代から地域に入るよう声掛けをしよう

お祭りやイベントなどを盛り上げたり、地域で活動する団体に協力したりしよう

- ・地域で活動するグループ、団体への協力（学習会、講演会、イベントなどに参加）
 - ・地域活動に参加すること
 - ・イベントやお祭りを盛り上げる
- ⇒忙しい世代の人にも参加して欲しい
- ⇒バルーンアートなどをすると盛り上がるのではないか

●自分の団体や地域ができること

世代間交流を促すイベントを企画しよう

- ・世代間交流を増やすイベントを企画する

交流会や冊子配布を通して転入者同士のつながりをつくろう

- ・活動中の転入者向け冊子作成、転入者同士の交流会を持ちたい

防災についての講習会などを通して、近隣の人々との交流の機会をつくろう

- ・防災についての学習会をご近所で

町会が主体となって、イベントの中でつながりを広げよう

- ・町会として、多くの行事等の中からふれあいを多くする

地域で連携して地域包括ケアシステムを進めよう

- ・地域一体型福祉連携（個人でも、地域・団体ともに）

子どもの居場所をつくり、そこを地域の拠点にしよう

- ・子どもの居場所作りから地域づくりを

⇒農協と連携して畑づくりを行い、子どもが参加するのはどうか

⇒子どもが遊び、高齢者が見守り、親は少し気を抜くことができるような場をつくれるとよい

エコクッキング教室などを行って環境への問題意識を啓発しよう

- ・お料理教室と（エコクッキング）環境に優しい食器洗い

⇒地域コミュニティに参加するきっかけになるよう、父親が参加するとよいのではないか

生活が困難な家庭の子どもを学習・こころ・居場所の面から支える取組をしよう

- ・生活困難な家庭の子どもへの支援（学習、精神的支え、居場所）

ITを活用して、スマートフォン向けの情報発信をしよう

- ・ITの活用、スマホで情報発信（まちのよいところ、美味しい店など）

区で活動している団体を連携させよう

- ・区で活動している団体を連携させる役割

落書きを消す、客引きを禁止するなどしてまちの印象をよくしよう

- ・落書き消し運動普及

- ・客引き防止の条例化

⇒コツコツ取組を重ねよう

●区民会議のあり方

まちのイメージや特徴を区外・市外に発信し、区を活性化しよう

- ・住み暮らすまちを知る、住みたいまちのイメージづくり、区の特徴アピール
- ・区民会議で提案している魅力発信を世に広めて宮前区を活性化

⇒伝えるツールを考えよう

専門的なテーマに沿う人選で、専門性の高い会議にするとよいのではないか

- ・専門性の高い会議（テーマに沿った人選で）

⇒テーマ性を高める程度でもよいのではないか

20～30代の人々が区民会議に参加する仕組みをつくろう

- ・20～30代の人たちが参加できる組織づくり

5 グループ

メンバー：梅原（中原）、萩原（中原）、内田（高津）、後藤（高津）、宮崎（宮前）、川畑（宮前）、石川（麻生）

●議論のポイント

- ・「自分ができること」としては、地域で人と人の顔が見える関係をつくっていくことがポイントであり、地域の活動を担っている町会・自治会の活動に参加していくことが重要だという意見が出された。そのためには「あいさつ運動」「地域の清掃」など、地域の人への声掛け、活動への参加が有効だという話が出た。

- ・「自分の団体や地域ができること」としては、まず企業や産業についての話があった。企業がまちの役に立つことが、ひいては企業の存続にもつながるということを、企業にも市民にも共感してもらえるような機会をつくるのが大切だという意見が出た。また、いまだに産業≒公害などという誤解やアレルギーが根強くあるので、さらに理解促進に努めていきたいとのことだった。

また、各団体から町内会への配布物が多く整理が必要だという意見から、区民会議として町内会の活動を支援できないかという意見が出された。民生委員についても、それぞれの受け持つ町会が違うので、なかなか委員同士では理解しづらく、解決が難しいことも多いとの意見を受け、情報共有と情報整理が必要との認識が共有された。

- ・「区民会議のあり方」については、今後広報のあり方を検討してさらに認知度向上を目指して欲しいとの意見が出された。認知度が上がれば、区民公募が増え、多様な区民の参加へつながっていくのではないかという話の流れには賛同者が多かった。区民会議は町内会地域団体、産業と連携し、区民会議が各団体との活動の核になることが、地域の課題解決に

つながるということを話し合った。

●自分ができること

あいさつ運動をしよう

- ・地域に顔見知りを作る基本である「あいさつ運動」を広げていこう
⇒あくまでもポジティブに、大声で元気よくあいさつしよう

地域の清掃をしよう

- ・地域で同じ活動（清掃）を共有することで、仲間意識がめばえる
⇒清掃をきっ掛けにして、地域の活動へ参加するきっ掛けにする

子どもを預る

- ・子ども支援センター「空」（麻生区）に所属して6ヶ月から2歳までの子どもを4人みている

●自分の団体や地域ができること

企業と連携し、合同事業などを実施しよう

- ・企業がまちの役に立つことが、企業の将来にもつながるということに共感できる機会をつくる
- ・交通マナーや決まりを周知する←「自転車運転免許証」の発行を行う。（中原区で実施）
- ・高齢者対策として小型循環バスを計画する（横浜市などでは実施している）

子どもの支援と高齢者の支援を仕分けて丁寧に実施しよう

- ・団体として2カ所で70歳以上の方々へ弁当を配食しているが、今後子どもへの支援も検討するという。今の小中学校や幼稚園のシステムの中で支援ができないだろうか（地域包括センターは高齢者に特化できないだろうか）

町内会の活動と連携し、活動を支援しよう

- ・各団体等から町会への配布物が多いので、情報の整理が必要なので、区民会議で支援する

民生委員が得た情報は、地域ごとに情報共有を進めていこう

- ・民生委員としての地域での取組を、民生委員同士だけでなく、取り巻く地域と共有していくことができるとうい

相談できる場をつくっていこう

- ・人と人が顔の見える関係をつくり、ネットワークを形成し、困った時に相談できる場をつ

ないでいく

●区民会議のあり方

区民会議の認知度を向上させよう

- ・区民会議の広報を充実させて認知度をあげていく
 - ・区民会議のことを知らない方がたくさんいるので、情報をうまく発信できないか
- ⇒伝えるツールを考えよう

区民会議の委員構成の考え方を変えていこう

- ・区によって期間が違おうし、任期も違おう
 - ・新旧の委員の引継ぎがない
- ⇒区と区、新旧委員など、それぞれの情報交換の場をつくる

多様な区民の参加へつなげよう

- ・PTA や学生など、若者の参加を促そう
- ⇒公募区民をもっと多くする

町会・自治会等、地域団体との連携を深めよう

- ・行政機関として町内会への対応が弱い
- ⇒区民会議と連合町内会（代表者同士）の定期的会議を開催する

区民会議が、地域の各団体の「核」となろう

- ・区民会議が核となり、各団体（町会、NPO、商店街、事業所等）と行政が核となって、まちの課題解決への道筋をつける

産業との理解促進を

- ・産業と公害が連想されるなど、産業振興にアレルギーが根強くあり誤解も多い
- ⇒理解を深めるために、ともに連携しよう

6 グループ

メンバー：埜瀬（川崎）、阿部（幸）、橋本（中原）、松本（中原）、富田（高津）、葛西（宮前）、滝本（宮前）、辻野（多摩）、山下（多摩）、高橋（麻生）

●議論のポイント

- ・自分にできることとしては、健康寿命を延ばして自立した老後を送り、それまでの経験から社会への提言を行っていききたいとの意見があった。
- ・自分の団体や地域ができることとしては、主に①関係づくり、②多世代交流、③子育て支援に関する議論が行われた。①では交流イベントなどを企画し、顔なじみの関係を広げることから地域の課題解決を担う人を増やそうとするアイデアが、②では小学校区程度の地域ごとに利用できる「高齢者サロン」を開くアイデアや、子ども、若者世代、シニア世代が交流できる仕組みやイベントが必要との声が上がった。③では、抜け目のない支援を行うために、地域単位ではなく子ども個人をグループ化して支援にあたる、プレママ教育や子育て支援講座などを強化するとよいという意見、シニアが子どもを預かることで、多世代交流につなげるとともに、親世代に心の余裕をもってもらおうという提案があった。また、このような支援を自ら受ける余裕もない人には、どのようにしてアプローチできるだろうか、という課題も話し合われた。
- ・区民会議のあり方については、区民会議内でより活発な情報共有を行ったり、委員をグループ化してより深いコミュニケーションをとる仕組みをつくるアイデアや、委員と参与のつながりが浅く連携できていない、任期終了後に課題や事業を継続することや、提言が実行されるかをチェックできないとの課題が話し合われた。地域における実践を増やすべきとの意見から、町会と連携する、若い委員をもっと増やす、公募による選出を増やすといったアイデアが出た。

●自分ができること

長生きして社会への提言を行おう

- ・健康長寿、社会の構築への提言
- ⇒待機老人の存在もあるので、健康で長生きすることで社会に貢献できる

●自分の団体や地域ができること

人をつなげるイベントを企画し、顔なじみの関係を増やして、地域の課題解決のための仲間を増やそう

- ・顔なじみの関係を増やし、楽しい行事、困ったこと（急な雪かき）、地域の課題（防犯）協力する
- ・交流の場の提供
- ・人と人をつなげていく企画、イベントの実施とコーディネート

子ども、若者、シニアの多世代交流のためにコーディネートしたり、場を提供したりしよう

- ・年長者と若い住人との橋渡し役
- ・地域の高齢者と子ども達のふれあいの場を考えていきたい

いこいの家より小さい単位の町内会館などを利用して、高齢者支援のための高齢者サロンをつくろう

- ・町内会、町内会館に月一回の寄り合いどころを開設する（ワンコイン 100 円）。高齢者支援（高齢化率が高くなっている）

⇒学生ボランティアなどに手伝ってもらおうとよい

⇒シニアの自宅の近くで開催され、参加しやすい場所にあることが大切

地域の分類で子どもや子育てを支援するのではなく、子どもをグループ化して支援するとよいのではないか

- ・幼児を持つ親子のグループ化

子育てサロンといこいの家がコラボレーションして、いこいの家でシニアが子どもの面倒をみている間に、子育て相談などを行うとよいのではないか

- ・子育てサロン、教育、高齢者タイアップ、月一回

⇒多世代交流にもなる

虐待防止のために、子をもつ前の事前教育、子育て中の悩み相談や子育てを助ける組織や場ができるとよい

- ・子育て教育（親と子）
- ・虐待を防ぐこと、若い親達の相談や悩みを聞いて助ける組織づくり、親達が心豊か、保育園の重要性

⇒このような地域の取組に参加できないほど困っている人をどのようにサポートするかも課題

⇒地域単位にこだわらずに活動、参加できるとよい

子育てやシニアの困りごとを請け負う、町内会の便利屋のようなものがあるとよい

- ・老人世帯などのちょっとした仕事が（電球の取り替えなど）町内会内に便利屋さんのような組織

公園が、園庭のない保育所の園庭代わりに使われていて、本来の公園の使い方がされていない

- ・公園が園庭のない保育所の園庭代わりになり、公園の意味をなしていない
- ・区の財産の認知度が高くなるよう、緑地などの案内をわかりやすくしよう
- ・多摩区の財産である緑地の宣伝が必要。向ヶ丘遊園駅からの案内をはっきりさせたいと思います

●区民会議のあり方

区民会議の活動委員をグループ化するなどして連携を強め、実践力を高めよう

- ・区民会議活動委員のグループ化と提言実践部隊へ
- ⇒任期が終わっても、グループ毎に連携し、活動が継続されているかどうかチェックできるとよい

情報を可視化することによって連携を強め、活動を活性化させよう

- ・情報の可視化（わかりやすく）、連携、活性化
- ⇒委員同士がもっと深いコミュニケーションをとることが大切

区民会議が町内会に働き掛けるなど、地域の人同士をつなげる取組をしよう

- ・地域をつなげる取組
- ・町内会とつながる
- ⇒区民会議の中に若い人が増えて、次世代のために議論できるとよい
- ⇒公募による委員をもっと増やすとよい

委員と参与がもっと話し合う場を持とう

- ・委員と参与と一緒に話し合える「場」づくり

7グループ

メンバー：佐藤（幸）、梶川（中原）、田中（中原）、長尾（中原）、笹子（高津）、山田（宮前）、配島（多摩）、岡倉（麻生）

●議論のポイント

- ・「区民会議で議論ばかりするのでなく実際に実行できる体制づくりが重要」という提案をきっ掛けに、「自分たちだけでやるのではなく、すでに活動している地域団体に協力や連携をお願いしたりすることも大切ではないか」、また、「そういう団体をつなげていくためにも、積極的にいろいろな団体や個人に声を掛けるなど個人レベルでの周知活動も大切である」という話に収束した。

●自分ができること

みんなでつながろう

- ・（多摩区では）「向こう三軒両隣」で仲良くしようとしている
- ・みんなでつながるきっ掛けをつくろう
- ・間を取り持つ何かがあるよい

⇒何よりもまずは個人がつながるところから！

個人でできる地域活動しよう

- ・歩道の雪かき
- ・登下校時のパトロール
- ・あいさつ運動
- ・ポイ捨てたばこの問題…住宅街はポイ捨てタバコ禁止区域になっていない

特技を生かそう

- ・「環境」と「文化」（特に音楽）のコラボ（連携）ならできる

区民会議の活動をサポートしよう

- ・個人的に地域の活動に積極的に参加する、あるいは周りの人も誘う
- ・改革のめざすところを理解して、区役所の活動を支援するように活動する

⇒区民会議の活動にもっと声掛けしよう！

●自分の団体や地域ができること

すでに地域で行われている活動と区民会議の活動を積極的に連携させよう

- ・環境美化活動・自転車使用上のマナーアップ
 - ・町会活動を通し、区民に貢献する（防災・防犯・高齢者対策など）
 - ・老人の孤立化の問題、自治会や町内会でも積極的に（居場所を広めて）
- ⇒区民会議の活動に協力・連携してもらいたい！

区の課題解決に向けて提案や協力をしよう

- ・区の課題解決事業への提案をする
- ・文化協会から出ているので、区民会議で決まったことなど、みなさんに伝え一緒に活動する

ネットワークを生かそう

- ・PTAなので、空白地域のないネットワークで活動できる、会員数も多い
- ・環境分野（団体）のコーディネート（全市的なネットワーク）

●区民会議のあり方

話し合いだけでなく実行もできるようにしたい

- ・企画実行もできたらいいな
 - ・区民会議の課題に対応した行政の支援体制が欲しい（プロジェクト型の区民会議）
- ⇒話し合いだけではもったいない！

さまざまなレベルでの区民会議があるとよい

- ・課題解決には身近なものから地域のものまであるので、区民会議のほかにコミュニティがあるとよい
- ⇒課題解決には全区だけでなく、狭い範囲での話し合いが重要

区民会議のPRをもっとしよう

- ・区民会議の活動がより区民にPRされ、より効果的になり、成果があがるようになることを目指す
 - ・日常合わない団体の方とお話しでき、幅の広い活動ができるのはメリット
- ⇒区民会議のPRはまず個人から！

8 グループ

メンバー：森脇（川崎）、中森（中原）、秋山（高津）、中里（宮前）、黒澤（宮前）、細谷（宮前）、小塚（多摩）、矢野（多摩）、白井（麻生）

●議論のポイント

- ・「自分ができること」では、自身の地域への参加、もしくはその支援をどのように行うかということについて主に話し合われた。地域行事への参加や町内会等への参加をしていきたいという意見では、仕事等で参加できない状況であるものの能動的に参加していきたいという今後に向けた話や、個人で始めたハロウィン企画が地域に広がっていったという実体験、また活動の中に若い人が少ないという現状等が話された。また在日外国人が文化・生活の違いにより、例えばゴミ出しの仕方等、地域での生活やそのルールに慣れないことで、地域から孤立している問題に対処したいという意見があり、お互いのルールを理解し、歩み寄ることの重要性が話されました。
- ・「自分の団体や地域ができること」では、高齢者や児童、在日外国人の地域での見守り活動や、そういった人たちを中心としたコミュニティづくりをしていきたいという話が出た。その役割を担える組織の1つは、地域の中で本来は大きな存在である町会であり、積極的に地域に働き掛けていく組織となるようにしていきたいという意見があった。また、地域の各団体はそれぞれ地域で抱える課題を持っているはずであり、区民会議ではそれらを吸い上げられるよう、連携する視点が重要という意見が出た。
- ・「区民会議のあり方」についてはまず、区長に提言をあげて終わりとせず、試行段階までであってまずは自分たちで話し合ったことを実践していくことが重要であるという意見があがった。宮前区の区民会議ではこの件に関わる議論をしているとのこと。また区民視点での問題意識だけでなく、行政側の問題意識も把握した上で区民会議のテーマを決めていきたいという話があった。もう一つの視点として、このように話し合った内容自体は重要な事柄であるものの、区民会議そのものや、議論している内容等の情報発信・PR が不足しているという意見も挙がった。広報回数の増加、分かりやすく伝える工夫等の件等も必要であると意見交換した。
- ・議論の締めとして、「区が好きだ」「区を良くしたい」という区民を増やしていこうと話し合った。

●自分ができること

区を好きな人を増やそう

- ・区をよくしたい、好き、という人を増やすこと

地域行事へ参加しよう

- ・地域行事参加、町内会の班活動と交流
 - ・地域のお祭り参加や、ハロウィンなど、コミュニティ
- ⇒仕事をしている人が能動的に参加する必要がある
- ⇒地域行事を通じて多世代のつながりができる

●自分の団体や地域ができること

外国人を含め、住民が住みやすいように協力しよう

- ・住民（外国人も）が住みやすいように協力
- ⇒お互いのルールを理解するなどして、文化の違いを知ろう

町会自体がもっと活発に活動する組織になろう

- ・町会組織を通じて新しい形の防災組織の取組
- ・芸術のまちづくりを区内の他団体とともに推進しPRする

子育てで困った時に、役所につなげたり、仲間をつくったりする手助けができるとうい

- ・地域の中で子育てなど子どもに関することで困ったことがあった場合、役所とつなげる、また、仲間づくりの手助け

地域の見守りや趣味の活動を通して災害時も頼りになるコミュニティづくりをしよう

- ・ガーデニングを道具にコミュニティづくり
 - ・地域の見守り。高齢者、児童
 - ・障害者相談でのスタンプラリー、防災時のコミュニティづくり
- ⇒外国籍の方が入りづらいので、入りやすさが必要

地域の中心組織である町内会・自治会が現状把握と協議を行うとうい

- ・地域を代表する組織は町内会、自治会。地域づくりのために、町内会、自治会の現状把握、町内会、自治会の課題について検討、協議

●区民会議のあり方

提言するだけでなく、行動する区民会議になろう

- ・理念から実践へ、行動する区民会議
 - ・行政への提言だけでなく、実際のケースとして試行段階まで進める
- ⇒提言の先まで実践したい
- ⇒区長止まりでなく、実際に動かそう

区役所の問題意識を聞いた上で検討テーマを決めるとよいのではないか

- ・ 検討テーマを選定する上で、区役所の具体的な問題意識も聞きたい

課題対応のためのグループをつくとよいのではないか

- ・ 課題対応に向けたグループ作り、組織体制

区民会議をもっとアピールしよう

- ・ 会議のアピール

⇒簡単に伝えられる方法を考えよう

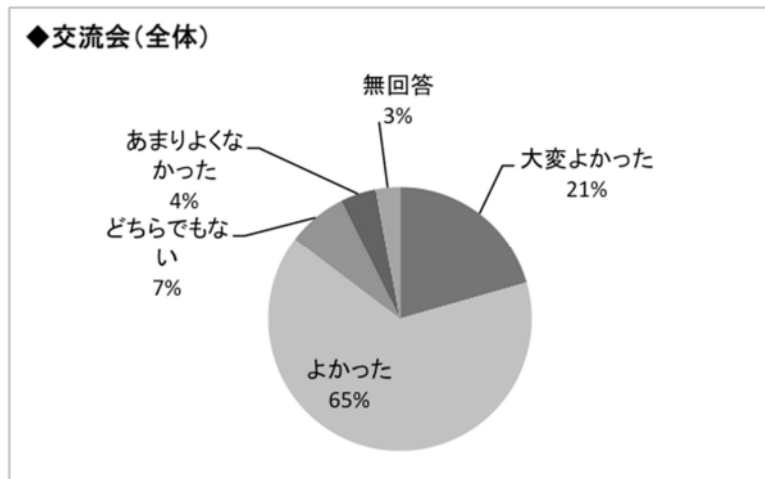
⇒関心がない、広報が足りない、などの課題をどのように解決するか

8. 参加者アンケートの結果

8-1. 区民会議交流会の企画について

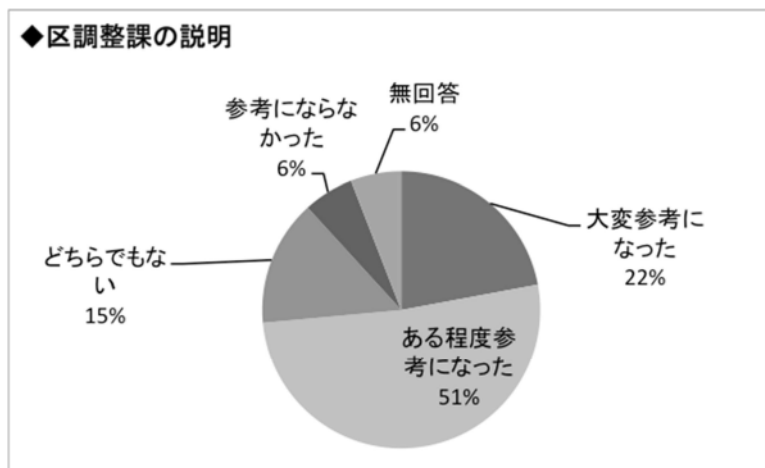
◆交流会（全体）

	(件)
大変よかった	14
よかった	44
どちらでもない	5
あまりよくなかった	3
無回答	2
計	68



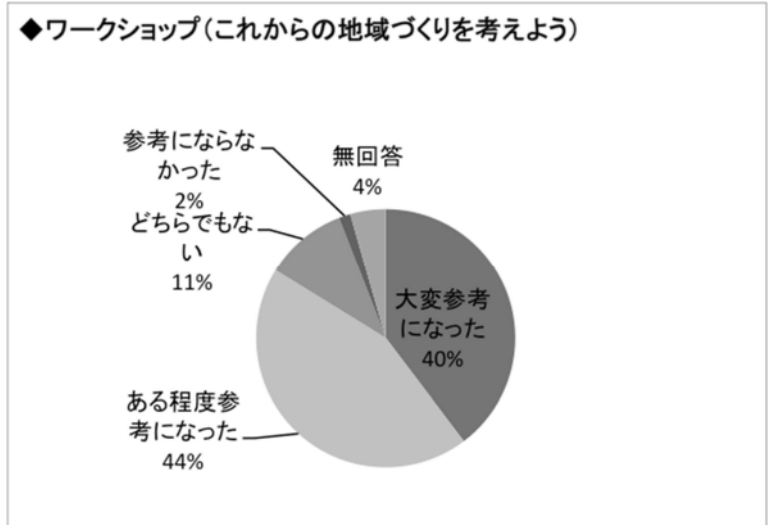
◆区調整課の説明（区役所改革の基本方針）

	(件)
大変参考になった	15
ある程度参考になった	35
どちらでもない	10
参考にならなかった	4
無回答	4
計	68



◆ワークショップ（これからの地域づくりを考えよう）

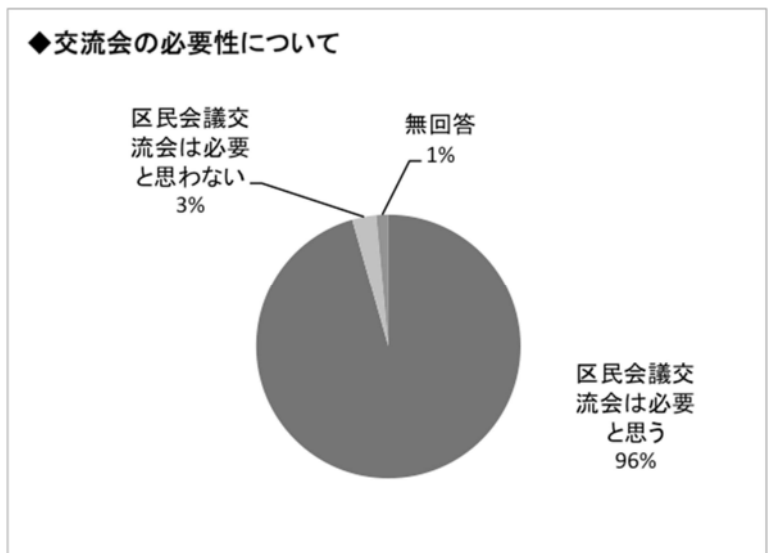
	(件)
大変参考になった	27
ある程度参考になった	30
どちらでもない	7
参考にならなかった	1
無回答	3
計	68



8-2. 区民会議交流会のあり方について

◆区民会議交流会の必要性について

	(件)
区民会議交流会は必要と思う	65
区民会議交流会は必要と思わない	2
無回答	1
計	68



8-3. 交流会のあり方について

・感想 ⇒意見

他区の活動、考え方を知る良い機会になった

- ・他区の活動、考え方の情報を得ることは必要
- ・他区の事情やとりくみの様子がわかってよい
- ・他区の活動ぶりが知れる
- ・他区の活動、考え方など参考になった
- ・他の区の様子がよくわかる
- ・他区の情報を知る事ができる
- ・各区の皆さんの取組を伺うことはとても参考になりました。また、ワークショップの意見は、示唆に富むものが多く勉強になりました
- ・他区の方のお話が参考になる
- ・各区の実情を知る上で良いと思います
- ・それぞれの区の課題や活動状況がわかる
- ・各区の実情や行っている事などが参考となる

⇒他区の情報が見られるので各区の活動経験をフリー討議できるような交流の場にして欲しい

⇒他の区を知る貴重なチャンス。地区によって共通する点、違う点など参考になった。大学のある地区、区民会議の内容に資料以上に人の声で聞いてよかった

⇒他地区や他グループ意見や発表が聞いて、視野が広がり、参考になることが多い

⇒他区の事情、委員の見解等日頃得にくい知見収集の機会となる

⇒他区の事例は参考にならない。それぞれの区に特性があり、一般化できない

各区で区民会議のあり方は異なることがわかった

- ・他区での区民会議のあり方が違うことがわかった
- ・別の区民会議の皆さんと会って話し合うのはとても大事！
- ・区によって区民会議の様子が異なるようです。(例、任期が異なることを初めて知りました)
- ・他区の区民会議での取組を知り、委員が何を考えているのを知るためにも必要である
- ・他の区民会議の状況が生の声で伝わってくるので大変参考になります
- ・区民会議のあり方が各区で違っている。まち協もあり、他の協議会との関係をまとめる必要あり
- ・他区の委員の考え方、他区の区民会議の状況が聞ける
- ・各地区の区民会議の取組、任期の問題で問題解決提言に要する時間

- ⇒各区やはり区民会議で提言の件についても悩みを持っていると思います。課題について7区それぞれ地域性の特性がある中で、各区の特性を知る必要がある
- ⇒区民会議のレベルアップの為には、内容の再検討、充実が必要
- ⇒区民会議委員の活動の〇〇、顔のみえる関係の中から新たな発見と課題が生まれた
- ⇒区によって、または、委員の構成によって課題の取組方が違っている。特色ある事例は学びとなる

他区の活動、意見を自分達の区にも活かしてみよう

- ・他区の意見を聞いてフィードバックができると思う
 - ・自分達の区の活動と他の区の方の活動を比べて足りない所等考え方のアイデアを知る事ができた
 - ・自分の区では課題のことばかり話し合うので、区民会議や地域のこと全体的な視野で考えられるのがよい
 - ・他の区の活動が参考になり大学との交流ができているお話しを聞くことができました。視力障害のある方の苦勞を聞くことができた。少しでも参加することで理解が進むと思います
- ⇒各区の違いが聞けて良かった。又、同じ問題をかかえている事共有できた
 - ⇒地域課題情報の共有ができる
 - ⇒区ごとに温度差があり、他の区の取組を知ることで参考となる

地域間交流の場として意見交換できるのが良かった

- ・北と南で地域性の違いから交流がとれる事が良い
- ・各区との比較、課題等確認でき、立ち位置が理解できる為、大変貴重な機会と思います。今後も続けていきましょう
- ・各区の様子がよくわかった
- ・課題の共有、新しいアイデアの発見
- ・情報交換として、1年目はこのテーマで。2年目は「区民会議のあり方について」
- ・意見交換ができ、参考になる
- ・隣の区とは情報交流したい
- ・人がつながる事は良い事
- ・他の地域の人との交流が楽しい
- ・多くの意見や考えを聞く知ることは今後の活動、会議に大変役に立つと感じます
- ・各地域の動きや考え方について知る事ができる。次回での取組方などの参考になるのではないか
- ・?のところはありますが、みんないっしょけんめいボランティアしている人だなということを知ったことはプラスです
- ・大変良い刺激になる

⇒各地区の地域の特色等、交流を通して知りたい。 又、各地区のテーマ、問題について
知りたい

⇒川崎全体の共通課題を知る機会

区調整課の説明を具体的にわかりやすくしてほしい

- 区調整課の説明、具体的なことが良く分からなかった
- 区調整課の説明、項目のみだったので説明が欲しかった
- 各コーナーの時間が短かったと思います。区調整課の説明に具体的な各区のあり方がもっと知りたかったし質問の時間もあったほうが良いと思います

交流会の改善点について

- お話し合いの時間が短い
- テーマを決めて行うことも必要と思われる
- もっとワークショップの時間を増やし、充分話し合えるようにする。発表時間も2分とは形式的ではないか
- ワークショップではなく、各区でどのように区民会議をしているのか話しを聞きたかった
- ワークショップはテーマに沿った話ができているようにも思いました。しかし、それぞれの区の皆さんの思いをきけたことはよかったです。交流にはなったと思います
- このように時間が少ない会議でどのような成果が有るのか？どう意味があるのか？もっと有意義な意見交換がしたい

⇒区内、町内会において、まだまだ課題があり継続が必要と思われる

その他必要になることを考えよう

- 区民の声を聞き、会に伝える
- 行政のパイプ役の大切さがある
- 行政の目が届かない所にテーマを上げて〇〇にする
- ①課題や問題について共通情報の元に協議、②区民会議が単なる提言グループでない実施フォローする組織作りの必要性を共通認識、市内7区の地域のあり方が違うと思い、身近な話しとして聞ける事が重要と思う
- ALLかわさきとして問題意識を持つ事は重要
- 幅広いネットワーク拡充

8-4. ご意見・ご感想など 自由記入欄

・感想 ⇒意見

全体的に時間が短い

- ・時間が短いことが残念な点です。もう少しテーマを絞って重点的に意見交換してもよいと思いました
- ・時間が少なく残念
- ・時間が短い
- ・交流会の時間が短く、意見交換が十分にできない
- ・ワークショップの時間を長くして欲しい
- ・もう少し時間をとったら良いのでは
- ・ワークショップのテーマはもう少し意見が出しやすいよいに考えていくとよいと思いました。区民会議の交流というより委員個人個人の発表会のようなものでした。時間が少し足りなくて残念でした
- ・ワークショップの課題とポイントについての説明が理解できませんでした。従来各グループが3つの課題がでていて、そこからグループごとに地域づくりの課題について現況と未来志向の話し合いがないと充実感がありません。7つの区民会議の皆さんとお会いできて少しでも区の状況を聞きたいと思って参加しました。時間の開催を5時30分からにしてワークショップの時間を30分延長していただきたい
- ・ただ、それにしても時間が短すぎるようです。もう少し長くしても参加者からは異論はないように思います

⇒土日を利用し、交流会は10時から17時頃実施するくらいの意気込みでやらないと中途半端になる

⇒メンバー間の交流が十分できていない

区民会議は行政主導ではもの足りないのではないか

- ・区民会議は行政指導でつくれ、運営も行政主体。委員の選び方も問題である。いったん区民会議をこわしてはどうか？まちづくり協議会など、市民の自発的な組織の方が好ましい
- ・区民会議の提案されたテーマを行政がどう取組むか
- ・区民会議委員～年配の人が多くなる～区長推薦、団体推薦の中でメンバー構成がコントロールできないのでしょうか。会議のしかたは良かったのではないのでしょうか。ただし時間が短すぎる。「発表」後日の文書に期待しています
- ・各区の区民会議の議論、提言を共有した方がよいと思います。南北区民会議の交流もあればよいと思います

⇒区の権限が弱い

⇒区長提案だけでは2年では何もならない。話の内容については次期会議にも続けて行く必

要があると思う

区調整課の説明がわかりにくい

- 区調整課の説明、プレゼンテーションがなってない。しっかり理解していないように感じた
- 区役所改革の説明は短く理解できなかった。私自身は今後の川崎の地域包括ケアシステムについては市長講演も聞いております。期待しています

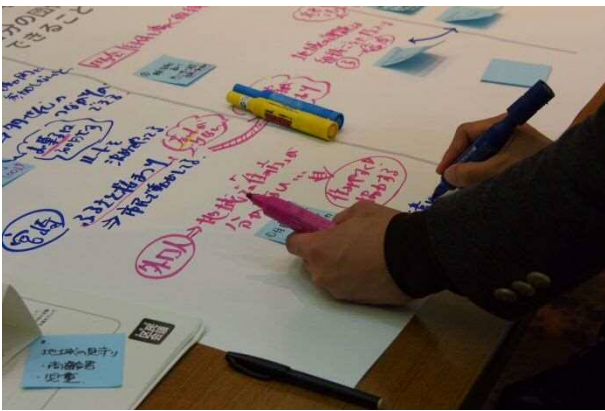
今後の改善点について

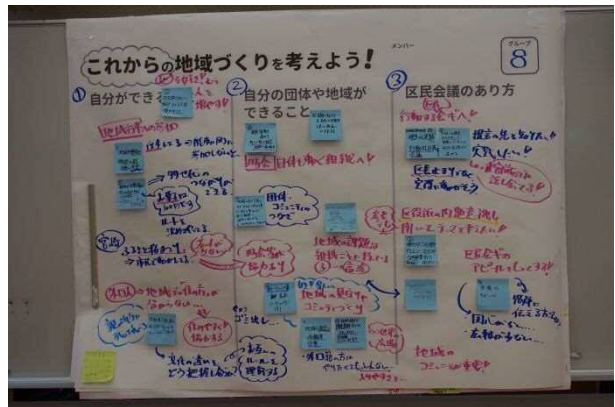
- 各区の取組に様々な差異があり、そこに交流の意義がある。話だけの一步通行に終わるのは全くもったいない
 - 情報をなるべく統一した方がよい（回覧物が多すぎる）
 - テーマについて事前に参加者へ通知しておき、予め意見をまとめさせておく、大切だと思います
 - 「住みよい地域」にどうするかを中心とすべき
 - 他区で同様のテーマで議論しているところがあれば意見交換したいと思います
 - 川崎市の掲げる（例、区役所改革の基本方針）課題についてテーマを絞って議論させるなど、川崎市の将来像についてテーマを考えてはどうか？
 - 区ごとに格差が出ている中で、区民会議のテーマの取り上げ方（区毎に）で大分違った
 - 企画構成が良かった瞬間はなかった
 - 高齢者と子育ての交流する施設という発想が出て必要なことと思います
 - 市民・住民からアンケートをとり、取り込んでいく（地域の課題 etc.）
- ⇒毎年実施して欲しい

グループの進行役はスキルが高く、短い時間でまとめられた

- ワークショップの進行（ファシリテーター）のスキルが高く、短い時間でまとめて頂いた
- グループ司会者は有能でした

9. 当日の写真





平成27年度 川崎市区民会議交流会

報告書

平成28年3月

発行：川崎市 市民・子ども局区政推進部 区調整課

〒210-0007 川崎市川崎区駅前本町 11-2 川崎フロンティアビル 7階

電話：044(200)2357 FAX：044(200)3912

メールアドレス：25kusei@city.kawasaki.jp

データ作成：(株)石塚計画デザイン事務所